



廣報

知

市民の友

2002年（平成14年）

2月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(株)池宮商会

.. ラジ大広報 ..

「那覇市民の時間」毎週日曜日
R.O.K・午前11時45分から55分まで



那覇市

<http://www.city.naha.okinawa.jp/>



第24回那覇の物産展

新春恒例の「那覇の物産展」が
1月15日から21日までの7日間、
沖縄三越で開催されました。

那覇の物産展は、販売普及促進と県産品の奨励、生産者の生産意欲の高まりを目的として開催され今年で第24回目を迎えました。

昨年9月のアメリカにおける同時テロ事件以来、観光客の大幅な落ち込みにより、観光産業や経済情勢が悪化。その中での開催でしたが、市価よりも安く販売されるにあつて、開店前から多くの人が列をつくり、目的の商品を買い求めていました。

一袋10円の特別販売の伊豆見タ
ンカンが開店と同時に完売。

首里の山城まんじゅう、サーターアンダギー、惣菜や鮮魚などにも人だかりができ、みるみるまに棚が空になっていきました。

那覇市沿岸漁業組合によるダイナミックなマグロの解体も注目を浴び、解体と同時に買い求めています。また、薬草の宝庫、沖縄の特色を生かした会場には、薬草茶や健康飲料水、ウッチン入り味噌などの健康食品が所狭しと並び市民や観光客の人気のまとなっていました。沖縄には、おいしくて健康によい食材が豊富にあります。観光客のみなさん、ぜひ味わってみてはいかがでしょうか。

主な紙面

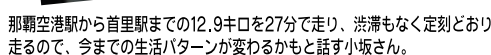
(2面) 4月から、家庭こみは那覇市の指定
こみ袋へ

(3面) 市民待望の公堂斎場「なつら斎苑」
3月1日から供用開始

(4面・5面) 那覇のすぐりむん まあーさむん

(6面) 西銘順治さん逝く 県民葬でお別れ

(7面) 情報P A C K



モノレール建設の工事がはじまり、所長として来覇してほぼ2年になります。沖縄都市モノレールは、道路上の桁を走る都市型モノレールになっており、こういう形態は東京多摩都市モノレールと同じです。

来年の12月に開通の予定で、開通すると、駅周辺が他府県同様に都市開発が進んでいき、那覇の街は、人の流れや街並みも変わると思います。現に旭橋駅周辺の再開発の計画が出てきていますし、新都心のおもろまち駅周辺の発展・変化もテンポが早いですね。

市民に多く利用して頂きたいのですが、沖縄は車社会で、電車に乗る経験が少ないので、特に高齢者、児童、体の不自由な方々は利用する際、不安があると聞きますが、安全面はちゃんと配慮された設備になっています。駅内での乗降口は、2重ドアになっており、モノレールの車両が完全に停止した後ホームドアが開くシステムになっています。モノレールのドアも乗車する人の動きにあわせ開閉できるよう手動式になっています。

また、安心して利用でき、歩くのが苦手で、近くの距離でも車を利用する人が多いと聞いています。駅までは少し歩いてもらうことになりませんが、渋滞のないレールを走るので、通勤や通学などで多いに利用してほしいですね。

他府県にあるモノレールとの違いは、景色が綺麗と言うことです。首里駅から那覇空港駅に向かう時は、まるで、海に吸い込まれるような錯覚に陥るほど絶景らしいです。多分、観光客にも喜ばれ、観光の目玉にもなると思います。

これまで、小倉、大阪や東京多摩のモノレール建設に関わり、その地域性にも触れてきましたが、若者文化はどの都市も変わらないと思います。沖縄が素晴らしい所だと思います。は、お年寄りを大事にし、尊敬していることですね。だから、長寿県にもなるのでは。若者には、先輩を敬い、地域の文化を大切に、する気持ちを持ち続けてほしいです。

「ゆいレール」
の現場から

小坂 昭紀

沖縄都市モノレール
システム設備建設工事共同企業体
(安次嶺519番地)



1946年（昭和21年）北海道生まれ。最初の勤務先は電気設備技師として、鉄道関係に従事。現在、三井物産株式会社に勤務。20年前からモノレール関連の仕事に就き、小倉、大阪、東京多摩のモノレールを手がける。沖縄都市モノレールには平成12年3月に所長として赴任。

市民課・国民健康保険課の窓口は毎日午後 7 時まで開いてます。(土・日、祝日を除く)